

## 建築・アートの新展示会 ロシア白樺耐水合板で引き立つ作品

芸術の秋をいどころ催しの一つとして「建築、アートがつくりだす新しい環境―これからの「感じ」」が10月29日から東京都現代美術館（MOT 東京都江東区）で開催されている。同展



619個のレンズを使用した作品「と、そこに」

示会は東京都の文化発信プロジェクトにおける「東京アートミートイング」の一環として開催。建築家の妹島和世、西沢立衛（SANNA）とキュレーターの長谷川祐子（MOT）との共同企画。現代アート、デザイン、建築、エンジニアなどの異なる表現ジャンルや専門領域が出会うことで新しいアートの可能性を提示することを目的としている。全28作品



のうち、海外アーティストの19作品が含まれている。開催前日の内覧会には、映画界の巨匠ヴィム・ヴェンダース監督らアーティストが来日。ヴェンダース監督はロレックス・ラーニングセンターを舞台に、人と建築の対話を描く3D映像インスタレーション「もし建築が話せたら…」を出品。高嶋館長は「これまでになかった斬新な展示会」と期待を込めてスピーチした。



日韓現代漆デザイン展「漆の再発見」の展示

計事務所からの依頼が増えている。東京デザインナイズウィークの一環として11月初旬に開催された日韓現代漆デザイン展「漆の再発見」でもロシア白樺耐水合板を納入した。設計を担当したビヤール・ルイズ・ハビエル氏（隈研吾建築都市設計事務所）によると、合板倉庫をモチーフにした展示台で屋根のように重層的な空間を形成し、アジア的な山水の山や川をイメージ。ロシアパーチ合板と最新の漆作品が出会うことで自然の優しさと工業デザインとの調和を図ったという。



床板 (2424 × 303 [295] × 12mm) 3900 円 / m<sup>2</sup> (無塗装) 5400 円 / m<sup>2</sup> (ホワイトニイロ塗装)